

2024 年度秋セメスター 授業評価結果

1. 実施率

表 1 授業評価実施率

	対象科目数	実施科目数	実施率（23 秋セメ実施率）
共通科目	14	14	100%（100%）
看護学部	43	43	100%（100%）
社会福祉学部・国際教育学部	56	56	100%（100%）
リハビリテーション学部	36	36	100%（100%）
計	150	150	100%（100%）

実施結果について

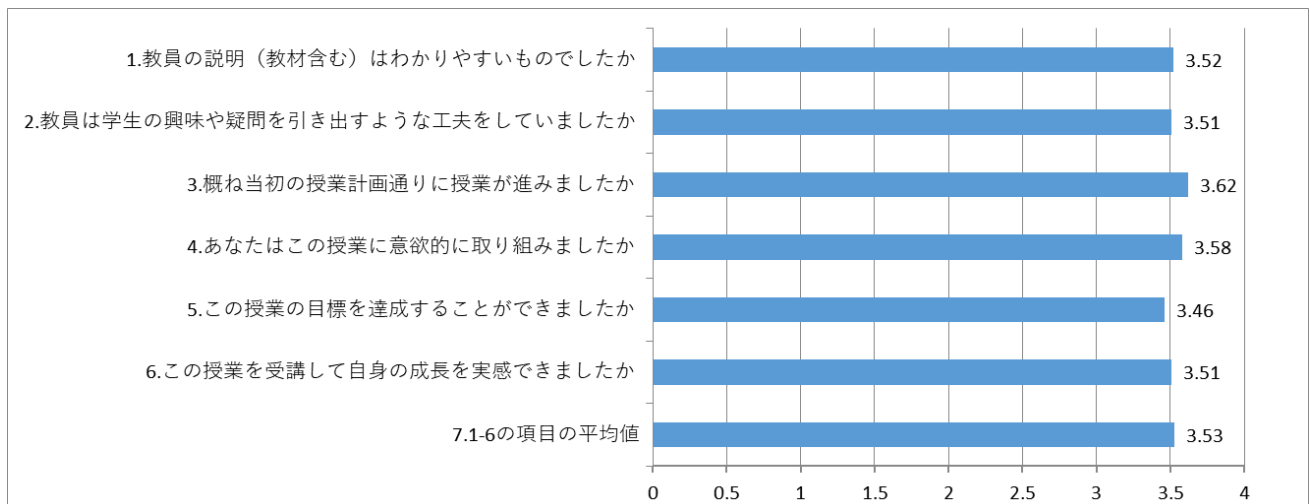
授業評価の実施率はこれまでと変わらず 100%を維持しています。

2023 年度から 2 年間で全ての科目の評価を実施することとして 1 科目辺りの隔年実施を継続して実施しています。

2. 授業評価結果

評価票の評価について「そう思う」（4 点）～「そう思わない」（1 点）と得点を与え、質問項目ごとに平均評定値を算出した（図 1～図 5）

図 1 全科目における質問項目ごとの平均評定値



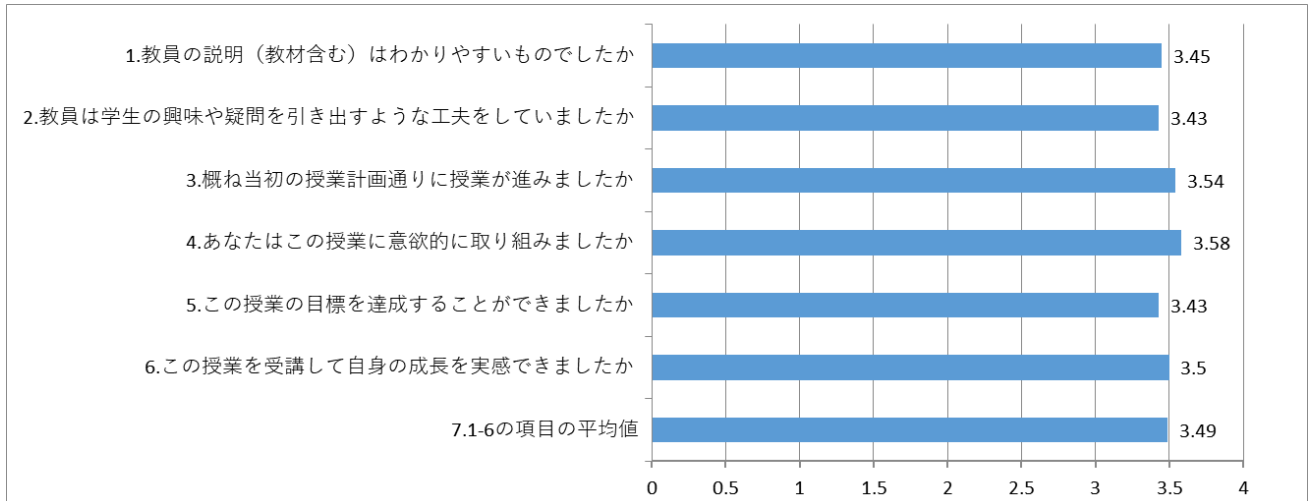
全学 FD 委員長からのコメント

秋セメ授業評価平均比較

問	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
1	3.61	3.62	3.64	3.52
2	3.71	3.73	3.63	3.51
3			3.66	3.62
4	3.54	3.54	3.60	3.58
5	3.42	3.45	3.46	3.46
6	3.62	3.63	3.55	3.51

授業評価の結果から、シラバスの計画通りに授業が進んでいたと理解しました。各質問項目においても 3.4 点以上であり、高い評価をいただきました。しかし、例年に比べ、項目 1 と項目 2、項目 6 の点数が若干低下している傾向があり、さらなる授業改善の工夫が必要であるかもしれません。精査し、大学全体の課題として、授業改善のポイントを整理し、教育力向上につなげたいと思います。

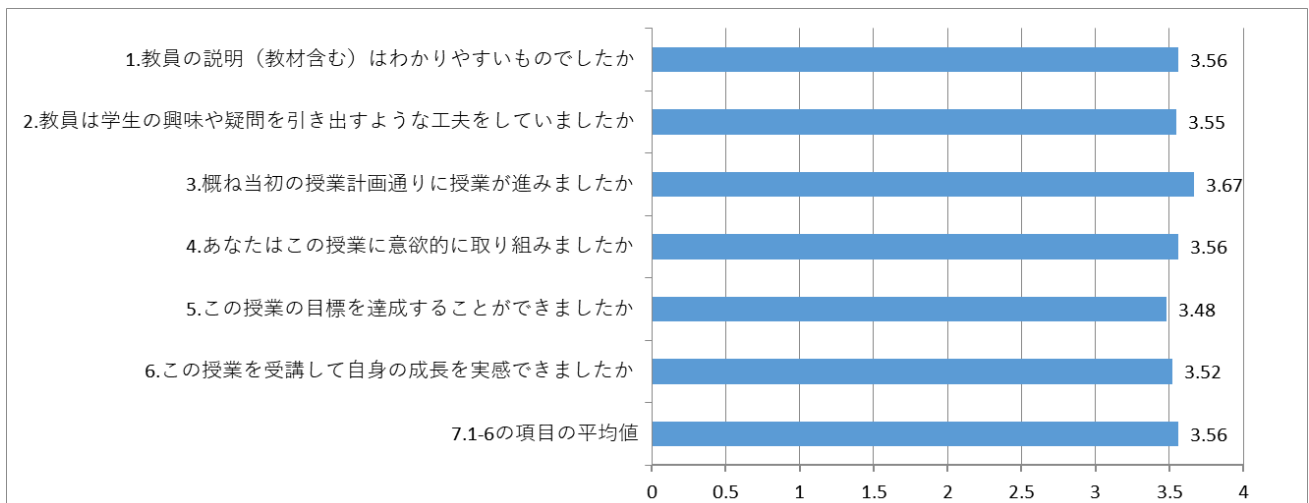
図2 看護学部における質問項目ごとの平均評定値



看護学部 FD 委員会のコメント

全体的に良い評価が得られています。特に授業進行に関する項目3は3.54、学生の授業への取り組みに関する項目4は3.58と3.5を上回る非常に高い結果が得られており、学生と教員が相互作用しつつ、ともに良い授業を作っていくことが出来、それに対して学生が真摯に取り組めたことを物語っていると思われます。他方、項目5「授業の目標を達成することができましたか」については、3.43と他の項目に比べ、低い値になっています。確かに学生としては回答しにくい質問ではありますが、教員が考えている目標を学生が捉え切れていないことの証しであり、今後の課題であると考えます。なお、実施方法の変更により、昨年までの結果と今回の結果を比較することが出来ないため、過去の結果との比較は行いません。

図3 社会福祉学部・国際教育学部における質問項目ごとの平均評定



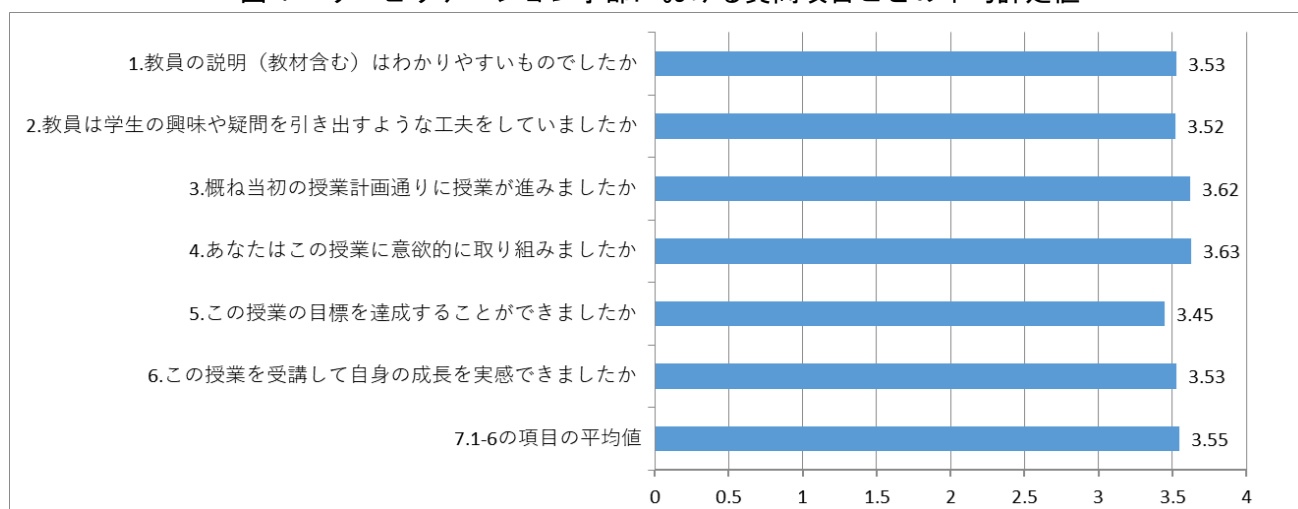
社会福祉学部・国際教育学部 FD 委員会のコメント

昨年度までそれぞれの質問に対する評価は向上してきていましたし、全学的に見ても両学部はよい評価結果が得られていました。

しかし、今回はいずれの質問も昨年度より平均評定は低下しています。全体の平均値では0.07ポイント低下していることになります。

特に質問1「教員の説明はわかりやすいものでしたか」、質問2「教員は学生の興味や疑問を引き出すような工夫をしていましたか」の2点はともに0.13ポイント低くなっており、教員側の改めての授業改善が求められるところです。この結果を真摯に受け止め、社福・国際両学部でどの点において十分ではなかったかを考察・検討し、授業改善・向上に向けた研修を両学部共に積んでいくようにします。

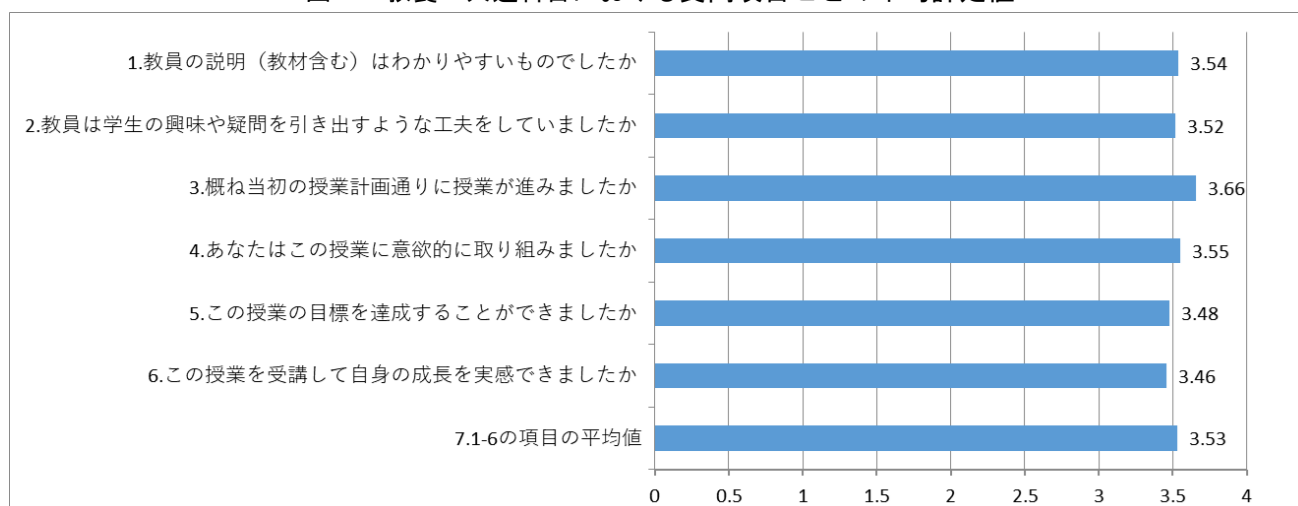
図4 リハビリテーション学部における質問項目ごとの平均評定値



リハビリテーション学部FD委員会のコメント

平均値が 3.55 と全体的により評価をいただきました。特に 3～5 については春セメスターと比較して評定が微増していること今回から、学生の皆さんが授業へ意欲的に取り組み、自身の成長を実感できる授業を提供できたのではないかと感じています。一方で、授業の目標達成度がやや低めの評価となっているため、より明確な学習目標の設定や学習支援の充実が求められていることが考えられます。また、興味を引きつける工夫や授業の分かりやすさについても、さらに改善の余地があると考えられます。次年度に向けては、学生がより主体的に学び、授業の目標を確実に達成できるよう、指導方法の工夫を図ってまいります。

図5 教養・共通科目における質問項目ごとの平均評定値



教務部長のコメント

概ね高い評価を得ており、教養・共通科目が順調に受け入れられていることが窺える。一方、各科目に係る個々の課題は、リアクションペーパー等の分析により個別に行う必要がある。科目の特性を鑑みた上で適切な評価方法を講じ、更なる改善に努めることを期待したい。